

# しんぶん

Vol. **106** 2017. 1 (隔月刊)

社会福祉法人 一心福祉会

<https://www.isshinfukushikai.or.jp/>



撮影者：池原 浩幸（東村・平良）



# 研修生は沖縄三世

デイサービス

十月より東村の海外移住子弟研修生受け入れ事業でブラジルから知念ガブリエルユウジ君が週一回、デイサービスで研修を行いました。

ポルトガル語と少しの日本語（方言含む）で職員や利用者とのコミュニケーションを図り、二カ月の研修を終える頃には通訳なしでも大丈夫な程日本語も上達していました。大学での専攻は理学療法学科ということで退院後の高齢者の現状や日本とブラジルの医療制度の違いなどについてお互いに意見を交換しました。

彼は三線も上手で彼が来る度に利用者は『今日は何を弾いてくれるだろう』と心待ちにしていました。また、デイサービスの忘年会でも『安里屋ユンタ』『唐船ドリー』などの演奏や、五歳から続けている空手の形も披露し、大好評でした。

将来は高齢者を対象としたリハビリの職業に就きたいとの事で、今後の活躍を多に期待したいと思えます。

理学療法士 宮城 さやか



にこやかにリハビリの様子



気合の入った迫真の演武

# クラシックコンサート

一心療護園

十月二十一日に利用者家族の知人で琉球交響楽団所属の、くによしさちこさん他一名によるクラシックコンサートがありました。

素敵な生け花の装飾や、ハロウィン風にアレンジの衣装でドレスアップしたお二人は、休憩をはさんで五曲を演奏していただきました。

普段、あまりクラシックの演奏に接する機会がないので、優雅に奏でるバイオリンの音色に誘われ、じつと目を閉じ聞き入る姿あり、とても満ち足りた気分になりました。至福な時を過ごすことができました。



格調高く優雅に演奏

やんばるの家

# 名産大学実習生受け入れ

十月二十四日から約二週間、高齢者看護実習をさせていただきました。利用者の方々の関りを通して、高齢者のできることを生かした援助方法や多様な価値観を有している高齢者の個性について考えることができました。また、施設全体で私たちが優しく受け入れたおかげで、様々なことを学ぶ機会となりました。この実習で学んだことを今後の学習にいかしていきたいとおもいます。

名産大学看護学科三年次 Eグループ



素敵な音色にウツトリ



学生の企画による交流会



三線も上手です



すの里



の豪華なケーキタリング♪



リングに大満足!!



# 一年を締めくくると笑顔!! クリスマス・忘年会



## 小規模 いっしん

十二月二十六日  
いっしんでは少し早  
めの「クリスマス・  
忘年会」を行いました。  
利用者十七名家族  
十名ボランティア三  
名の参加がありまし  
た。  
職員之余興「ゆり  
ていく会」の演奏、  
利用者さん代表が乾  
杯のあいさつなど、  
とても楽しめたと思  
います。  
ご家族のあいさつ  
の中で「お母さんも  
私もストレスなく、  
今、お母さんの面倒  
を見ることができ



誰だかわかる？職員余興

て幸せです。いっしんさん  
のおかげです。」とお礼の  
言葉を頂きました。こんな  
に感謝されているんだな、  
これからも笑顔いっぱい  
いっしんにしていこうと、  
職員一同、心に残る言葉で  
した。

## やんばるの家



皆で歌おう!

## 一心療護園



得意の楽器演奏

小規模 いっしん



富子さんのあいさつに一同笑い納め

デイサービス



締めのカチャーシー

待ちに待った忘年会が十二月十日に利用者・家族多くの参加のもと盛大に開催されました。

舞台では、幕開けの「かぎやで風」に始まり、日本舞踊、空手演武、職員之余興等々と大いに盛り上がり、中でも福引き抽選会では数字を読み上げられる度にあちこちで喜びの歓声が聞かれました。

最後は皆でカチャーシーを舞い踊り楽しい忘年会は名残り惜しくも閉会となりました。

看護師 又吉 智枝子

小規模 あがり



一年の中で一番の楽しみ



娘さんと参加された静さん

え



奥間ビーチホテル



初めてのケータ



人生はたった一度と言われますが、その人の歩んだ人生は唯一のもの。その貴重な体験を「私のヒストリー」(ライフヒストリー)と題してご紹介する企画です。

## 家族を支えて

特養やんばるの家人所者

真喜志 喜美(98歳)  
大保区出身

夫は警察官で那覇で勤務していましたが、私は一人息子の子育てと、長男である夫の両親の介護を大保でしていました。

終戦直後は名護市田井等の収容所に家族で居りました。軍によって家族が引

き離されそうになった時、夫が結核を患っていたので、家族を離れ離れにさせないでと願い出ました。病に伏している夫に栄養をつけさせようと、たんぼく源であるカエルを田んぼに獲りに行き、両腕をハブに咬まれました。塩屋の病院に行ったが丁度、医者がいなくて看護婦が傷口をナイフで切り、血を出し助けられたこともありました。夫は三十三歳で亡くなりました。



昭和55年病院長関係業  
務に精励したとの事で  
文部大臣表彰を受ける。

両親を看取った後、那覇に出て長男と生活を始めました。県立那覇病院(現在の琉大附属病院)で看護助手として働きました。姪がお産したが生まれたばかりの子の様子がおかしく、勤務していた病院の外科医に頼み込んで手術をしてもらいました。奇跡的に助かり、今でもその子が「喜美おばさんは命の恩人」と言ってくれます。成長して

いく姿を見てうれしく思い「命が助かったんだから、長生きしなさいよ。」と言っています。

退職後は兄のいたペルーに弟と墓参りに行ったり、関西に住んでいた息子の所に孫を見に行ったりして楽しみました。余生はやんばるで過ごしたいという希望がありました。ヒラヤチーと砂糖でんぷらを作るのが得意で孫たちに作って喜ばれていました。大保の自宅庭には花をたくさん植えていました。

三十三歳で亡くなった夫の三倍生きてきました。

互にうちすりてい  
弾ちやる三線や  
今ん我が肝に  
残ていうゆき

平成二十三年真喜志喜美詠む  
本人、息子(真喜志邦男さん)  
に聞き書き



古典音楽野村流師範に師事し本格的に三線を学ぶ。

## 大工の腕 健在です

小規模 いっしん

当事業所を利用する平良松茂さん(謝名城在)、若いころは大工の仕事一筋でその腕は村内でも有名であったそうです。いっしんを利用し趣味の囲碁教室がある火曜日改善センターへ、木曜日は地域のがんじゅう教室に出掛けます。自宅に居る時は自家菜園や家の修繕に汗を流し「毎日が忙しい」と訴える程です。

いつもの様に喫煙場所です。タバコを吸っている松茂さんに「いっしんの灰皿入れ作れないですか」と相談したところ「時間掛るけどいいんだつたら作るよ」と快く引き受けてくれた。素晴らしい作品が出来上がりました。作品も灰皿入れだけに止まらずプランターの台も作り、花も一段と映え利用者者の目を楽しませてくれます。

そんな松茂さんの目標は以前の様に自活が出来ることであり利用日には台所で職員から調理の仕方を習ったりと意欲的である。



プランター台、2台作成しました。

## OBボランティア

小規模 あがり

十一月十二日(土)に一心福祉会元職員、六名様が当事業所を訪れ、利用者さんと共にティッシュ箱のカバー作りを楽しみました。



OBボランティアの皆さんと共に。



ゆいフェスティバル「地域へ感謝！精一杯踊りました。」

様子でした。誇らしげなき、皆さんきり表現でスを思いつ音楽のダン

り、軽快な音のダン

の応援もあご家族など

では多くの迎えた本番

を重ねまし

かけて練習

を一ヶ月程

さん体操」の二つのダンス

えすの里

十一月十二日に「地域と共に楽しむ感謝祭」のテーマのもと、沖縄県知的障害者協会主催の二〇一六・YOU・I（ゆい）フェスティバルがうるま市民芸術劇場で開催されました。

えすの里では、地域家族やフェスティバルを見に来してくれるお客さんに日頃の練習の成果を多くの方々に披露する！を目標に「エビカニビクス」と「サザエさん体操」の二つのダンス

思いっきり自分を表現!!



大宜味展

えすの里

大宜味村で毎年行われている「大宜味展」に今年も利用者さんの作品を出展しました。

貼り絵を出展した利用者さんは「折り紙の組合せが一番大変だった、グループホームでの自由時間を活用して作成し一週間程で仕上がった。実際に飾られているのを見てすごく迫力があり、皆にすごいと言われてうれしかった」と笑顔で話されています。

今回、えすの里としても沢山の作品を展示する事ができ地域の皆さんへ見てもらう事で利用者さんの達成感や充実感を感じる良い機会となりました。来年はどんな作品が出来上がるか楽しみです。



今回、出展した伊波司さん

宜野湾車イス大会

一心療護園

第二十八回宜野湾車イス大会が十二月十一（日）行われました。大会を通して障害者に対する理解と連携を深め希望と勇気を持ち、社会への参加意欲を喚起してもらおう事が目的です。当日は天候に恵まれ、一・五キロの部に参加。

今回、初出場された仲村昌子さんは、「疲れた〜」



初出場の昌子さん

と話されていました。どの距離を自操されゴールする事が出来ました。「昌子、一番になった〜」と参加メダルを見せ、とても喜ばれていたのがすごく良かったと感じました。一緒にエントリーされた他の利用者さんも、家族と一緒に参加でき、とても良い機会になったと思います。

照屋 芳直



応援にかけつけた、ご家族と一緒に



〒 905-1303

沖縄県大宜味村字喜如嘉 2087 番地  
(旧喜如嘉小学校校長住宅跡地)

連絡先

電話番号：0980-44-2398

### 1. 目的

認知症によって自立した生活が困難になった利用者に対して、家庭的な環境の下で、食事入浴、排泄等の日常生活を支え、心身の機能訓練を行うことにより安心と尊厳のある生活をご本人のその有する能力に応じ、可能な限り自立して営むことが出来るよう支援することを目的とする。

### 2. 入居条件

- 1) 要支援 2 より、要介護 1～5 の認定を受け、主治医から認知症と診断された方が対象となります。
- 2) 地域密着型サービスに位置付けられているため原則として大宜味村に住民票を有する方。
- 3) 共同生活を営める方。

### 3. 施設概要

入居定員	9名(全個室)	全室トイレ完備	洗面台・冷暖房完備
建物	409.8㎡	食堂兼談話室 33.6㎡	浴室1か所(浴槽1)

\*スプリンクラー・ナースコール・収納タンス・ベット完備

### 4. グループホーム「きじよか」入居費用 (利用者負担概算)

(1ヶ月30日換算)

介護度区分	介護保険適用自己負担額		介護保険適用外 施設利用額			1ヶ月合計額
			家賃	光熱水費	食材費	
要支援 2	22,770円	(759円×30日)	40,000円	11,000円	30,000円	103,770円
要介護 1	22,770円	(759円×30日)				103,771円
要介護 2	23,850円	(795円×30日)			1000×30日	104,850円
要介護 3	24,540円	(818円×30日)			朝食 200円	105,540円
要介護 4	25,050円	(835円×30日)			昼食 400円	106,050円
要介護 5	25,560円	(852円×30日)			夕食 400円	106,560円

\*1ヶ月の利用料金は介護保険の1割額(1ヶ月分) + 介護保険適用外施設利用額が利用料金となります。

\*上記料金には加算等は含まれておりません。また、介護保険法改正により料金に変更される場合があります。詳しくはお問い合わせください

\*上記料金は1割負担を記載しております。平成27年8月より、2割負担の方がいますので介護保険負担割合証をご確認ください。